

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL http://www.jase.faje.or.jp 発行人 鈴木 勲 編集人 中山博邦
© JASE. 2016 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

| | |
|-------------------------------|-----------------------|
| 「関西性教育研修セミナー 第20回記念イベント」報告……1 | 性教育の歴史を尋ねる③⑦…………… 11 |
| もっと知りたい女子の性⑩…………… 8 | 今月のブックガイド…………… 12 |
| Dr.上村茂仁の性の悩みクリニック①…………… 10 | JASEインフォメーション…………… 13 |

◎「関西性教育研修セミナー 第20回記念イベント」報告

押されても 揺らいでも
立ち続けることの意味を問う

2016年3月13日(日曜日)午後1時より、大阪府立大学「I-site なんば」において、「押されても 揺らいでも 立ち続けることの意味を問う」をテーマに関西性教育研修セミナーが開催された。20回目を迎えた今回は、特定非営利活動法人ぶれいす東京顧問の池上千寿子氏の基調講演と運営スタッフである岡田実穂、野坂祐子、東優子の3氏が教育講演を行った。

主催：関西性教育研修セミナー実行委員会

はじめに

第1回に関西性教育研修セミナーは、2006年8月19日(土)～20日(日)の2日間、「子どもの性の安全・性の健康〔研修コース1 性暴力の被害と加害〕」をテーマに、大阪市立総合生涯学習センターで行われた。第1回から第10回までは、財団法人日本性教育協会(当時)の主催、第11回からは、関西性教育研修セミナー実行委員会の主催で開催されてきた。

第1回から今回第20回までのテーマおよび講師は、別表(7ページ参照)の通り。この10年間、性教育を取り巻く環境は、時代とともに変化している。

今回の性教育研修セミナーでは、基調講演として池



上千寿子氏に、「たかが性、されど性～無理をしないでいられるって、サイコー～」と題して、これまで実践してこれられた活動の足跡と性教育の変遷について講演していただいた。

休憩を挟んで、RC-NET（レイブ・クライシス・ネットワーク）代表でもある岡田実穂氏が、「アクティビスト、バッシングと向き合う」、大阪大学准教授の野坂祐子氏が「教育現場における『性』の扱い」、大阪府立大学教授の東優子氏が「性教育をめぐる市民戦争とその教訓」と題した教育講演を行った。

「たかが性、されど性～無理をしないで いられるって、サイコー～」

池上千寿子氏は、1982年からハワイ大学「性と社会太平洋研究所」でミルトン・ダイヤモンド教授のもとでセクソロジーを学び、帰国後、1994年に「おれいす東京」を設立し、エイズ予防とケアの活動に従事、2012年まで代表を務めた。



現在は顧問として活動している。2005年にエイボン女性教育賞、2009年日本エイズ学会アルトマーク賞、2011年WAS（世界性の健康学会）金賞を受賞されている。

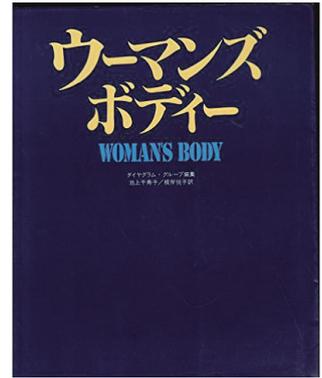
池上氏は、「50年間のきわめて主観的な自らの経験」と思い、活動の歴史をもとに、性とからだについて話します」と、前置きされて語り始めた。

二十歳までは、一言で言えば「オンナは別物なのだ」と言われ続けてきたという。その理由を聞くと「子宮があるからだ」と言われる。「子宮があると何で別物なの」と聞くと、答えは返ってこない。

「子宮って何だろう」という疑問をもって、調べようとするが、当時、女の身体、性についての書物は、妊娠、出産、更年期障害に関するものしかなかったという。この体験が、後に、『ウーマンズボディー』の翻訳・出版につながった。

話は、進み、池上氏は1970年代を、「女の性とからだをとりもだす70年代」と表現された。70年代は、性の言語化と可視化、そして「生とからだ（性）がはじめてつながった」時代であったという。それまでは、女のからだについて男の医師や心理学者が語っていたが、女性の性について女性が語るようになった、という。

池上氏は、1980年に医師の根岸悦子氏と出会い82年に前述した『ウーマンズボディー』を協働で翻訳・出版する。『ウーマンズボディー』では、「恥毛」という言葉はなく、「性毛」と訳すなど性の言語化、可視化に取り



組み注目を集めた。テレビなどで取り上げられたこともあって30万部のベストセラーとなる。これを機に、根岸氏との協働翻訳で20冊余りを出版する。

しかし、1980年代、日本のフェミニズム、ジェンダー系もセクソロジーには冷淡であった。「脳の性差を探る著作を翻訳するのはもってのほかだ」と言われた時代で、すべては家父長制の問題で男は敵で、性については深く考えないで、男の性はわからないですまっていた時代であったと、当時の様子をエピソードをまじえて語った。

その後、1982年本格的にセクソロジーに取り組むため、ハワイ大学「性と社会太平洋研究所」のミルトン・ダイヤモンド教授のもとへ。教授は、「セクソロジーでは、学位もポジションも得られない。セクソロジーは主流にはなりえない。それでもやるのか」と問うたという。1988年まで、ハワイ大学で学んだ池上氏は、ここで、「エイズ」に出合うことになる。ハワイ大学を中心にした経験については、2013年12月21日に開催された第16回関西性教育研修セミナーで、「Living Together～池上千寿子が歩み続ける道～」（本紙No.37：2014年4月号に掲載）と題して講演されているので参照されたい（日本性教育協会のホームページからダウンロードできる）。

帰国後、池上氏はエイズ予防とケア活動に本格的に取り組む始める。時代は、アメリカから始まったエイズパニックの影響で、日本でも学習指導要領が改訂され、性教育の授業が行われるようになった。1992年は、「性教育元年」と呼ばれた。

21世紀になると、性教育バッシングが始まる。『思春期のためのラブ&ボディBOOK』騒動、七生養護学校性教育への政治介入等々、そのような時代を池上氏は、日本におけるセクソロジー、性教育の先駆者の一人として活躍してこられた。

その池上氏は、「たかが性、されど性、無理をする
と生きづらい」という。

●無理をしない・その1

「無理な性別役割人間関係は解消する」

●無理をしない・その2

「特定概念で無理にまるめこまない」

●無理をしない・その3

「仲間とともに、一人ではなにもできない」

そして、性に「べき」「あるはず」「にちがいない」「できるはず」はない、人間の真骨頂は「変わる」こと、知ることは無限でおもしろいと語り、そして「人と人とのつながりのパワーと魅力に乾杯！」と締めくくった。

池上氏は、内田樹氏の次の様な文章を講演の中で引用している。

無知とは知識の欠如ではない。そうではなくて、知識で頭がすっかり目詰まりして、新しい知識を受け入れる余地がない状態のこと。何を訊いても、「そんなことは自分にはわかっていた」と応じるというのが無知の典型。（『修業論』光文社新書）

池上千寿子氏の基調講演後、休憩を挟んで、関西性教育研究セミナー実行委員会のメンバーの教育講演が行われた。

「アクティビスト、バッシングと向き合う」

RC-NET（レイプ・クラ
イシス・ネットワーク）代表
で関西性教育研究セミナー
実行委員会の事務局を務め
ている岡田実穂氏は、「アク
ティビスト、バッシングと向
き合う」と題して、LBGT・
性暴力支援のご自分の活動
体験について語った。



岡田氏は、大阪で支援ネットワークの活動を始め、その後、東京に移られ、現在は青森を活動の拠点として活動している。岡田氏は、「なぜ活動をするのか」ということから語り始めた。岡田氏は、次の3点をあげた。

- 「最後に、自分に起きたことを話したい」というメールを、受け続けるために
 - 既存の支援システムから排除されている存在を可視化するために
 - 性暴力サバイバーにとって、生きやすい社会をつくるために
- RC-NETのWebページの冒頭で、次の様に宣言している。

私たちは、ただ、あなたの生きるこの地球上、そして地域の中に、あなたの声を聞きたいと思い、あなたが生きる姿を見たいと感じ、そして一緒に生きている、沢山の仲間がいることを伝えたいと思いました。

レイプは特定の人間に起こる物珍しい出来事ではありません。被害にあったということは、けっして被害者に非があったからではありません。レイプについて考える時、私はいつも思います。「この問題に、第三者なんているのだろうか」と。

私たちは、すでに同じ場所で生きています。あなたは一人ではありません。私たちは、ここでこうして、出会う事が出来ています。

全てのレイプサバイバーのために。そして私たち自身のために。

RC-NETでは、団体や組織の垣根をこえて、「レイプ」という存在、そしてそこから、生きていく仲間のために、必要な情報を提供し、そして社会一般へのアピールをしていきます。

岡田氏は、「最後に、自分に起きたことを話して死にたい」というメールを受け取ってきている。自分一人で抱え込んでいる人のために、次の様に呼びかけている。

レイプ被害というのは、なかなか人に語られることの少ないものです。

その中を生きてきたあなたの声を聞くということは、私たちにとって、そして社会全体の多くの人々にとって、とても大切で、貴重なものです。

もしあなたがレイプに関わる体験を持っていて、それをここで語ってみる、綴ってみようかなと思われたら、その体験を私たちにシェアしてください。

レイプ、性暴力、と言っても、本当に多種多様です。一人として同じ人間はいないように、レイ

プサイバーだってそれぞれにいろいろだし、支援の形もいろいろです。

多くの人や、支援機関との出会いを持つことで、ご自身なりの「出来ること」を見出してください。そのために、このRC-NETがなんらかの手がかりになれば、とても嬉しいです。



「隠せ」と言われることについて

「わたしたちはここにいる」それはサイバーたちの覚悟
じぶんに起きたことが何なのかを、わたしたちは伝えたい

しかし、このような活動は、多くのバッシングを受けるといふ。大阪で始めたころのバッシングの一つに、著名なフェミニストから「中央にもいない人間が勝手に動くな、政治的な動きをしなければだめだ」と、味方であると思っていた、仲間だと思っていた人物からのバッシングに驚いたという。「当事者は当事者らしく、お茶会でもやっていけばいい」とか「当事者は冷静じゃないから当事者を入れないで進めたい」という言葉も浴びせられたという。

東京に移って来てからは、LBGTの人たちから「性暴力被害にあう人がいるなんてことは、コミュニティのイメージを悪くするから言うべきではない」などという声もあったという。しかし、様々なバッシングがある中で、活動に対する当事者からの圧倒的な暖かい支持の声に支えられてきたという。

最後に、LBGT当事者である岡田氏たちが、2014年から青森での活動で受けてきたバッシングと活動の広がりを紹介する。

最初の活動は、青森市のメイン通りでの「レインボーパレード」であったという。参加者は3人、英語で書かれたプラカードを持って行進した。このパレードを見た当事者から、「私たちはあなたたちのように、権利の主張がしたいわけじゃない。目立ちたいなら東京でやれ」といったメールが来るようになったという。しかし、3人で始まったパレードは、1年後には、

8倍の24人に。

「様々な逆風がありますが、逆風があるから頑張れるのかもしれませんが。今年は、参加者50人を目指します」と締めくくった。

「教育現場における『性』の取扱い」

関西性教育研修セミナー実行委員会の共同代表の野坂祐子氏は、「教育現場における『性』の扱い」をテーマに講演された。

野坂氏は、性暴力に関する研究を専門とし、臨床心理士として性暴力の被害者への支援を行うと同時に、児童相談所や学校等で性問題行動を示す児童や性加害を行う少年への治療教育に取り組んでいる。また、子どもの性的発達と性的健康（セクシュアルヘルス）の観点から、児童養護施設や学校での性教育を行っている。



学校での性教育のやりにくさの一つに、古くから「寝た子を起こすな」というフレーズで表される性教育への回避がある。こうした抵抗感に対し、これまで性教育を推進する人たちは「今どきの子どもは寝ていない」とか「どうせ起きるなら寝覚めをよくすべき」と反論して、性教育の必要性を主張してきたわけだが、野坂氏は「現場の教職員が『子どもが起きた』と感じるような、子どもの反応そのものに注目すべき」と指摘した。つまり、性教育の授業の前後に、子どもに「卑猥なからかいや性への過度な興味、教員を困らせるような質問、一部の学習内容へのこだわり（歪曲した理解）、不調や不満の訴え」など、教職員が対応しにくい反応が生じたならば、「それは性教育が子どもにとって何らかの『引き金』になったと理解すべき」という。性教育という『引き金』は、過去の性的なトラウマ体験を思い起こさせている可能性があり、「子どもが起きた」と感じたときこそ、ケアが必要になると述べた。

こうした子どもの性への過剰な反応を、トラウマを手がかりに理解し、支援を提供していく視点は、「トラウマインフォームドケア／システム（Trauma-Informed Care / System : TIC）」と呼ばれ、近年、

米国保健福祉省薬物依存・精神保健管理局によって推奨されている概念の一つという。TICのポイントは、以下の「R」で説明される。

Trauma-Informed Care/System

- **Realizes:** ト라우マの実態にあわせて
- **Recognizes:** どんな影響を受けているか認識して
- **Responds:** 適切な対応をすることで

⇒ **Resist re-traumatization** 再被害を防ごう！

これを性教育にあてはめると、次のようにいえるという。

- ① Realizes：子どもの性的発達・環境・背景を理解する
- ② Recognizes：子どもの困りごと・関心に合わせ認知する
- ③ Responds：子どものサインに応える

教室内に性的虐待や性被害を受けた子どもがいることを想定し、「寝ているか、起きているか」の論争を超えて、安全な性教育を行うよう努める必要があると、野坂氏は述べた。そのために次のような提案をし、講演は締めくくられた。

- 外部講師への丸投げ依頼ではなく、外部講師と教職員の協働関係を構築する。
- 教職員が子どものモデルになれるように、教職員が自分の性について学ぶ機会を多くもつ。
- 性の健康を支援するネットワークづくり。

「性教育をめぐる市民戦争とその教訓」

関西性教育研修セミナー実行委員会の共同代表の東優子氏は、「性教育をめぐる市民戦争とその教訓」と題して講演された。

WAS（世界性の健康学会）性の権利委員会共同委員長でもある東氏は、WASの「性の権利宣言」の10番目にあげられている「教育を受ける権利、包括的性教育を受ける権利」に関連して、米国の性教育の状況と



その教訓を中心に講演された。

米国における「性教育をめぐる価値の対立」は、「禁欲のみ（Abstinence-only）教育」と「包括的性教育（Comprehensive Sexuality Education）」の対立である。この対立構造は、日本でも見られるが、宗教的背景もあって米国では顕著にみられるという。

「禁欲のみ（Abstinence-only）教育」とは、「寝た子を起こすな」、「望まない『妊娠や』性感染症予防に唯一確実な方法は禁欲である」「標準は貞節な一夫一婦制におけるセックスである」「中絶手術は新しい生命を断つ殺人と同じ」などの考え方で行う教育である。

「包括的性教育（Comprehensive Sexuality Education）」とは、「主体的・自己決定の尊重（基礎は生命尊重）」「年齢・性経験・文化に即した教材や学習方法の開発を重視」「ピルやコンドーム使用による避妊教育と性感染症予防教育などリスクな性行為の低減に焦点化した教育内容」などを行う性教育である。

性教育をめぐる価値の対立

禁欲のみ (Abstinence-only) 教育

- 寝た子を起こすな
 - 性行動選択は、成人にも難しい
 - 発達段階に応じた慎重な性教育を
- 禁欲は、社会上、精神上、健康上の利点がある
 - セックスの前に自立が重要
 - 早期のセックスは心身・家族関係・社会機能に有害な結果を招く
 - 望まない妊娠や性感染症予防に唯一確実な方法は禁欲である—Say No to Sex
- 道徳教育と恐怖教育
 - 標準は、貞節な一夫一婦制におけるセックスである
 - 思春期妊娠の多くは妊娠中絶となる
 - 中絶手術は新しい生命を断つ殺人と同じ

包括的性教育 (Comprehensive Sexuality Education)

- 主体性・自己決定の尊重（基礎は生命尊重）
 - 正確な性知識をもつことが、望まない妊娠や性感染症の予防に役立つ。
- 年齢・性経験・文化に即した教材や学習方法の開発を重視
 - 理解できる内容に応じて早期から実施
 - 参加型による気づきの学習法
 - 教師やリーダーの養成
 - 期間の長さや継続性を重視
- リスクな性行為の低減に焦点化
 - ピルやコンドーム使用による避妊教育と性感染症予防教育
 - 行動論的アプローチ
 - コミュニケーション・スキルの涵養

歴史的に見た場合、ブッシュ政権時代の性教育に関する政策と政治は、「禁欲のみ（Abstinence-only）教育」と「ABC」が主流であった。

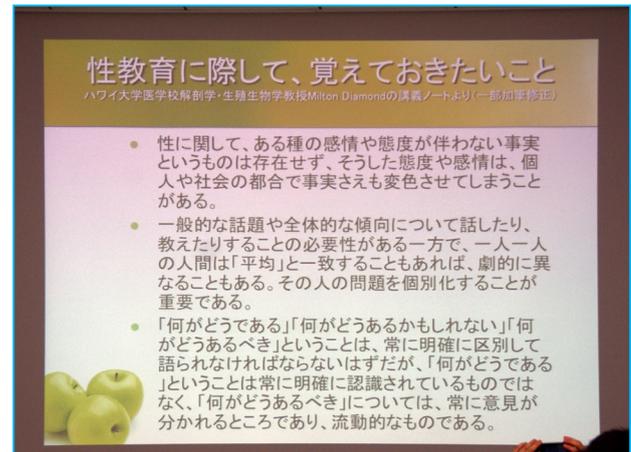
ブッシュ政権は、「HIV 予防という政策は賛成はするが、結婚前の禁欲しか感染の予防はできないと主張し、コンドームの教育と配布プログラムを非難し、資金援助を凍結した」という。そして多くが、「ABC」であるべきと主張したという。ABCとは、まずはA（Abstain 禁欲）、次にB(Be Faithful 相手に忠実)、それがだめならC（Condom）という主張である。

しかし、現実には、結婚が女性にとっては感染リスク要因であり、一夫一婦制のもとで結婚した女性ももっとも早い速度で感染拡大するリスク集団になっている。その原因を分析していくと、「A」である「禁欲

のみ (Abstinence-only) 教育」、つまり「セックスをしないのであるから性について知る必要はない」という性に対する無知に行き着くという。

東氏は、米国のジョン・オリバーというコメディアンの人気トーク番組が2015年8月に放送した「今日の米国社会と性教育」の内容を紹介された。

- 米国50州のうち、教育課程で性教育を義務づけているのは22州。医学的に正確な情報提供を義務づけているのは13州のみ。
 - 性教育の指導要領 (基準) はバラバラ。州によって、あるいは校区もしくは学校によっても内容が異なる。オハイオ州の放送局が性教育の取材をしようとしたところ、そこに内容について取材を拒否する学校が続出。
 - 「結婚まではセックスしない」という禁欲に焦点化した性教育を行う学校は多い。しかし、米国の平均初交年齢は17歳で、ほとんどが生涯に1人以上とのセックスを経験する。「するな」とだけ教えるのは非現実的とコメント。
 - 指導要領で、何を教えるべきかは明確ではないが、何を教えるべきでないかは明確に記述している州もある。例えば、ミシシッピ州で避妊について教えることはできるが、コンドームの使用方法の実践は州が禁じている。しかし、そのミシシッピ州が、10代の妊娠が全米2位という皮肉な結果。
 - 教師が生徒に対してLBGTQに触れることを困難にする教育法をもつ州が、アラバマ、アリゾナ、ルイジアナ、ミシシッピ、オクラホマ、サウスカロライナ、テキサス、ユタの8州。
- しかし、東氏は、米国で、このような番組が放送されることは、大きな変化であるという。
- 放送では、「禁欲のみ (Abstinence-only) 教育」と「包括的性教育 (Comprehensive Sexuality Education)」の教育評価の結果を示している。
- 禁欲のみのプログラムでは、性行動に変化はみられない。
 - 「包括的性教育」が性行動を早めたり増加させるといふ証拠はない。
 - 性交を先に延ばすことと予防の奨励は「禁欲のみ教育」より有効である。
 - 性的に活発になる前のプログラムの方が効果的である。
 - 現在まで、禁欲が10代の妊娠を防ぐ唯一の効果的方法であることを示す方法論的に健全な研究は見つ



かっていない。逆に「禁欲のみ教育」では、10代の妊娠が増えるという統計結果がある。

- 「包括的性教育」プログラムには、生殖、妊娠、性感染症、予防方法についての知識を増やす力がある。
- 「包括的性教育」によって性行動が早まることはなく安全な性習慣を指導できる。
- 「包括的性教育」は性的な態度、スキル、行動に影響し、望まない妊娠を減らすに有望である。

以上のような教育評価を紹介するとともに、米国の同性婚事情などについても触れられ、東氏は、ハワイ大学のミルトン・ダイヤモンド教授の講義ノートの一部を紹介した。そして「押されても揺らいでも、世代を超えて、仲間たちと立ち続けていきたい」と締めくくられた。



関西性教育研修セミナー第20回記念イベントは、その後、30分余り講師と参加者のディスカッションで幕を閉じた。

その後、熱いディスカッションの続きが、場所を変えて懇親会の場で遅くまで続けられた。

関西性教育研修セミナー年譜

| 回数 | 日付 | テーマ | 講師 |
|------|--------------------|---|---|
| 第1回 | 2006年 8月19日～20日 | 性暴力の被害と加害 | 藤岡淳子（大阪大学大学院）野坂祐子（大阪教育大学） |
| 第2回 | 2006年12月17日 | 性教育の実践を見る・聞く・学ぶ | 秋山繁治（清心高校教諭）宇野賀津子（ルイ・パストゥールセンター）土肥いつき（高校教員）兵藤智佳（早稲田大学）渡辺武子（人間と性文化センター） |
| 第3回 | 2007年3月4日 | HIV陽性者のリアリティを伝える | 東 優子（大阪府立大学）矢島 嵩（JaNP+）野坂祐子（大阪教育大学）生島 嗣（ぶれいす東京） |
| 第4回 | 2007年8月26日 | 死をみつめ 命を問い直す | 池上千寿子（ぶれいす東京）渋井哲也（フリージャーナリスト） |
| 第5回 | 2008年3月15日 | 性の多様性と性科学 | リチャード・グリーン（英国インペリアルカレッジ）イーライ・コールマン（ミネソタ大学） |
| 第6回 | 2008年7月27日 | 日本の性と社会のイマドキー若者編ー | 守 如子（関西大学）鈴木秀子（大阪府立北淀高等学校） |
| 第7回 | 2008年11月23日 | 日本の性と社会のイマドキー恋愛・結婚編ー | 関口久志（『セクシュアリティ』編集長）永田夏来（明治大学大学院）藤井ひろみ（助産師） |
| 第8回 | 2009年12月12日 | SEX&SOCIETY（性と社会）エイズ四半世紀で何が変わり、何が変わらない | 北丸雄二（NY在住ジャーナリスト）岳中美江（陽性者サポートプロジェクト関西）張由起夫（エイズ予防財団流動研究員） |
| 第9回 | 2010年8月22日 | 児童・生徒と性同一性障害 | 中塚幹也（岡山大学大学院）塚田 攻（埼玉医科大学）康 純（大阪医科大学） |
| 第10回 | 2010年12月12日 | 次世代に語り継ぐSEX&SOCIETY（性と社会） | ミルトン・ダイヤモンド（ハワイ大学）池上千寿子（ぶれいす東京） |
| 第11回 | 2011年9月4日 | 学校のなかの性的マイノリティ～教育現場における排除と包摂～ | 日高庸晴（宝塚大学）土肥いつき（高校教員）宇佐美翔子（共生社会をつくるセクシュアルマイノリティ支援全国ネットワーク） |
| 第12回 | 2011年12月11日 | 支援学校における教育とケア | 東 優子（大阪府立大学）浅野恭子（大阪府池田子どもセンター）池川典子・船木雄太郎（大阪府立泉北高等支援学校）野坂祐子（大阪教育大学） |
| 第13回 | 2012年8月6日 | 性の教育とアドボカシー | マット・ティリー（カーティン大学）サム・ウィンター（香港大学）アラン・ジアミ（仏・国立衛生医学研究所）ミルトン・ダイヤモンド（ハワイ大学）ほか |
| 第14回 | 2012年12月23日 | 児童生徒の性暴力被害に対する学校での危機対応～スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの実践から～ | 藤森和美（武蔵野大学）金澤ますみ（大阪人間科学大学） |
| 第15回 | 2013年8月24日 | オトコと性、神話と科学 | 関口久志（京都教育大学）小堀善友（獨協医科大学） |
| 第16回 | 2013年12月21日 | LIVING TOGETHER～池上千寿子の歩み続ける道～ | 池上千寿子（ぶれいす東京） |
| 第17回 | 2014年9月6日 | 射精する身体～男子の性と教育～ | 村瀬幸浩（一橋大学） |
| 第18回 | 2014年12月23日 | 知的しょうがい児（者）への性教育実践の工夫あれこれ | 船木雄太郎（大阪府立泉北高等支援学校）武子 愛（淑徳大学大学院） |
| 第19回 | 2015年8月9日 | 人間の性をめぐる緒言説の本当と嘘 | ミルトン・ダイヤモンド（ハワイ大学）フィリップ・トモロビッチ（同志社大学） |
| 第20回 | 2016年3月13日 | 押されても 揺らいでも 立ち続けることの意味を問う | 池上千寿子（ぶれいす東京）岡田実穂（RC-NET）野坂祐子（大阪大学大学院）東優子（大阪府立大学） |

※ 2009年8月に予定していたセミナーは、ミルトン・ダイヤモンド教授急病のため休会になった。